

## 編集後記

今年も皆様のもとに矢作川の研究成果をお届けします。「矢作川研究 No.6」は、サイズがこれまでのB5からA4となりました。レイアウトも2段組とし、全体として一般の学術雑誌に近づけた体裁となっています。内容的にも、初めて河口域そして海域を対象とした報告を盛り込み、流域全体を包含しました。

特集には、2000年9月の東海豪雨の影響に関する報告を掲載しております。豪雨の概要に関する報告とともに、それがもたらした影響をそれぞれ工学的および社会的な観点で扱った論文を掲載しました。生物調査の結果につきましては、残念ながらデータが多岐に渡るためにとりまとめに時間を要しており、次号以降に掲載することとなりました。読者の方々にご不便をおかけしますこと、この場を借りてお詫び申し上げます。

また、初めての試みとしまして、今回より原稿の内容を第3者がチェックする作業を始めました。これによって、読者の方にとってより理解しやすくなるよう、そしてデータの質を高められるよう、内容の改善に努めてまいります。不備な箇所気付かれましたら、率直なご批判のほどよろしくお願いいたします。

自然生態系を改善していくための方法を見いだすには、継続的なデータの蓄積が必要です。アユが大量に遡上し、カワシオグサの異常発生がなくなる川にしていくのは容易ではありませんが、環境の回復に向けて少しでも近づけるよう努力を重ねていきたいと思えます。

最後になりましたが、編集にあたってご協力をいただきました皆様には心より御礼申し上げます。

2002年3月15日

矢作川研究編集委員会